

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-894-1781  
090-9602-0700

# 有明漁民座り込み

## 農水省前

有明海沿岸4県の漁業者達は、7日早朝から農水省前で座り込みを始めた。この日、漁民の他、全国の市民原告や支援者ら40名が集まり、農水省に対し、「控訴するな！開門せよ！」のシュプレヒコールをあげた。座り込みは、控訴期限である11日まで続けられ、今後、有明海沿岸から続々と漁民が上京する予定である。



座り込みには、(財)自然保護協会の吉田正人理事らNGOも多数激励に訪れた

## 副大臣開門容認

今村雅弘農水副大臣は、佐賀地裁判決について、「私はかなり評価している。大臣には控訴しないでいきましょうと、アピールしている」と語り、開門調査について「私個人としては(その選択肢が)あってもいいんじゃないかと思う」と述べ開門を容認する姿勢を示した。

## 長崎県知事感情論

開門への理解を求めたい自民党佐賀県連幹事長と同党県議団会長は4日、金子長崎県知事を表敬訪問した。ところが金子知事は「開門すべきでない」と一方的に持論を展開。続いて応対した立石暁副知事もさんざん待たせた揚げ句、「何のために来たのか」との趣旨の発言をした。これに佐賀県連の2人は「失礼な」と激高。話を切り上げ、不快感もあらわに佐賀へ帰った。

## 谷津元農相開門訴え

谷津元農相は、佐賀地裁判決について「ようやく司法が私と同じ判断をした」と評価し、農水省の役人については国民の感覚から大きくズレていると激しく指摘した。その上で、農業と漁業の両立の方策として開門調査を訴えた。

## 諫早市民ら開門要求

諫早の市民団体「諫早湾を守る諫早地区共同センター」(鮫島千秋代表)は3日、諫早市の吉次市長と中村敏治市議会議長に対し、「排水門の開門」を国に働き掛けるよう求める要請書を提出した。

## 防災効果に疑問

### 締切後、湛水被害増大

農水省は、諫早干拓潮受堤防の締め切りによって諫早湾の後背地の湛水被害が減少した等と防災効果を強調し開門できない根拠としてきた。しかし、公共事業チェック委員の会のヒアリングに農水省が提出した背後地の湛水記録によると、潮受堤防閉め切り以前の15年間は7回の湛水被害であったのに対し、閉め切り後の11年間は実に17回と増えているこ

## 農相 漁民の窮状認める

とが分かった。本当に防災効果があつたと言えるかどうか、むしろ逆効果だったのではないかと諫早市民からは疑問の声が上がっている。

3日、有明海の漁業者らと面談した若林農水大臣は、そのときの印象について「それは当然、非常に苦しい事情に追い込まれた人たちを代表した立場の話ということですから、お会いする前にもいろいろなそれらの方々のレポートとか、そういうのを私なりに見ておりますので、大変な事態になっている人がいるのだな、ということに改めて承知をしたということなんです。」と述べ、農水大臣として有明海漁民の窮状を正式に認めるに至った。

## 韓国司法修習生

### 諫早干拓見学

韓国の司法修習生は2日、司法研修の一環として諫早湾干拓農地を見学した。この研修は、研修所教官と共に韓国の司法修習生がアジアの公害や環境破壊の現場を見学し、そこから将来の司法を担う能力を磨こうとするものである。有明海の漁業被害を目の当たりにした修習生らは驚きを隠せない様子だった。